

全国の循環器科または心臓外科を標榜する病院に通院中の患者さま・ご家族さまへ

国立循環器病研究センターでは日本循環器学会が実施する循環器診療の実態調査のデータベースを利用して「遺伝性不整脈患者の診断・治療・予後に関する研究」を行っています。

この研究は、普段の診療で得られた以下の情報を解析してまとめるものです。この研究のために、新たな検査等はありません。ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、以下の担当者までご連絡ください。また、この研究に診療の情報を使ってほしくないとのご意思がある場合も、遠慮なくご連絡ください。お申し出以降は、その方の情報はこの研究には利用せず、すでに収集した情報があれば削除します。お申し出による不利益は一切ありません。ただし、解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】日本循環器学会に協力する全国の循環器科または心臓外科を標榜する施設において、2012年4月1日～2023年3月31日の間に、遺伝性不整脈（カテコラミン誘発多形性心室頻拍・QT短縮症候群）で入院された方

【研究課題名】循環器疾患診療実態調査（JROAD）のデータベースと二次調査に基づく遺伝性不整脈患者の診断・治療・予後に関する研究（研究A）

【研究の意義・目的】本研究では、全国規模のデータベースである循環器診療実態調査（JROAD）のデータベースを用いて、カテコラミン誘発多形性心室頻拍やQT短縮症候群患者さんの原因疾患、治療内容、転帰を明らかにし、今後の早期の診断及び治療に役立てていくことを目的にしています。

【利用する診療情報】

以下の1)～3)の入院において、下記の診療情報を利用いたします。

- 1) カテコラミン誘発多形性心室頻拍やQT短縮症候群での入院
- 2) 退院後の再入院
- 3) 1)と同一年度の、1)以前の入院

入院時の年齢、性別、入退院年月日、退院時転帰、身長、体重、病名、医療費、治療薬、治療内容、各種検査所見など

また、1)の入院と同一年度の外来通院記録も利用いたします。

【情報利用管理者】

国立循環器病研究センター 理事長 大津欣也

【研究の実施体制】

【研究責任者】 国立循環器病研究センター 臨床検査部 部長 相庭 武司

【研究期間】 研究許可日より 2030 年 3 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所等の個人を直接特定する情報については厳重に管理し、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人を特定できない形で行います。

この研究で有られた情報を将来、二次利用する可能性や研究計画書を変更する場合があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て、研究機関の長の許可を受けて実施されます。二次利用する際に文書を公開する場合は、同ページに公開いたします。

【この研究の結果について】

この研究は、ご自身またはご家族の健康に関する新たな結果が得られるものではありませんので、研究の結果を個別にお知らせすることはありません。

【問合せ先】

国立循環器病研究センター 臨床検査部 部長 相庭 武司
06-6170-1070 内線 40737